風の子

糸魚川市立木浦小学校
学校だより　No.１９
令和３年１月２２日

もちつきで新年の景気づけ

３学期が始まった８日、全校でもちつきをして新年を祝いました。米作りでお世話になっている方から「風の子米」の一部を替えていただいたもち米２升（３kg）を使いました。うすは当校の物ですが、数年前から他校に貸したままになっていて、それを秋に職員が持ち帰って以来、職員の間に「もちつきをやりたい雰囲気」が残っていたのです。

コロナ禍なので、マスク着用や手指消毒を徹底し、広いけど寒い体育館で行いました。１～３年生は６年生や職員に手伝ってもらい、４年生以上は一人で、「よいしょ！」の掛け声を受け、きねを振いました。できあがったもちは、一口ずつの大きさで、あんこ、きな粉、のり・しょうゆの３種類の味でいただきました。きねつきなので、滑らかで歯ごたえがあり、よく伸びるとてもおいしいもちでした。

正月３日に公民館で書き初めとまゆ玉づくり、今回はもちつきを経験しました。ＩＴ化等の急速な技術革新の真っただ中にいるからこそ、子供たちには、伝統文化に触れる機会がより一層、貴重になってきています。いつまでも子供たちにこのようなよき文化を提供できる木浦の地域や学校でありたいと願っています。

人と関わり、心をつなぐ　【地域で活躍する先輩】

５・６年生は、自分の生き方を考えるキャリア教育の一環として、地域を思い、人と関わる活動に力を注いでいる２人の先輩を招き、熱い心の内を語っていただきました。

保護司　Ｏさん（浜木浦）

浜木浦のＯさんは、会社勤務の傍ら、法務大臣委嘱の保護司として８年間務めてこられました。刑務所や薬物依存を治療する病院の見学、社会を明るくする運動などの活動をとおして、相手を思いやる気持ちや感謝の心が全ての人々に根付くことを願うようになりました。また、木浦の里山が荒廃していくことに心を痛め、耕作放棄地を借りて稲作をしたり、山に手を加えたりすることで豊かな環境を取り戻したいと語られました。

【児童の感想】

・仲間を増やし、地域の人との絆を深めるために、地域行事に参加していきたい。

・木浦の田んぼが荒れていると、お手伝いをしたり、協力したりして人の手を加えていかなければ里山は変わらないという行動に、木浦を大切にしようとする気持ちを感じました。

新戸出身のＩさんは、東京の大学卒業後、全国各地や海外での勤務の経験を生かし、ツアーガイドの会社を興しました。海外からの旅行者に、東京の職人が価値を生み出している暮らしそのものを伝えることで人と人とをつなぎ、お互いが幸せになれる活動をしています。現在は、新戸にも拠点を置き、人と人とのコミュニケーションを大切にして、都会と田舎をつなごうとなさっています。

Ｉさん（新戸）

【児童の感想】

・夢中になっていることを楽しむことを学びました。また、自分のことだけでなく、一人ひとりのことに気を遣っていることが学校での生活に役立つと思いました。

・楽しみながら好きなことを続けていくことを学びました。ツアーでその場所の文化や歴史を知り、こんなにもいいところがあったと気付けることがすばらしいと思いました。

地域の人口が減少し、個人主義が浸透している現在、子供と地域とのつながり、人と人とのつながりが希薄になっています。Ｏさんや Ｉさんと同じで地域を愛し、盛り上げたいという心は誰にもあります。木浦小学校もその一端を担うことができるよう、地域と共に充実した教育活動を展開していきたいと思います。